

公開講演会「パレスチナは今、そして未来への希望は」 ～パレスチナ大使と一緒に将来のパレスチナを考える～

パレスチナ難民が生まれて 75 年、平和の象徴と呼ばれたオスロ合意から 30 年目の 2023 年、ガザ地区からの攻撃とイスラエルによる報復攻撃により、これまでに 2 万人以上の市民が亡くなっている。逃げ場のない中で行われる大規模空爆により、ガザのインフラは壊滅的な被害にあい、また人々の心身にぬぐい切れない大きな傷と禍根を残している。ガザとヨルダン川西岸地区が分断されて 17 年目の今年、パレスチナ社会の展望を駐日パレスチナ代表部のワリード・シーム大使に伺います。そして、大使と学生たちとトークセッションを通じて、これからの日本の役割について考える機会を持ちたいと思います。ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【イベント概要】

日時： 2024 年 1 月 17 日(水)18 時～20 時
会場： 立教大学池袋キャンパス 1203 教室
定員： 77 名/参加費無料/対面のみ
申込： [申し込みフォーム](#)または右記 QR コードより
※申し込み締切:2024 年 1 月 17 日午前 10 時
※逐次通訳あり



イベント申込用 QR コード

【当日プログラム】

18:00～18:10 開催あいさつ
18:10～18:40 パレスチナの現状について:ワリード・シーム大使
18:40～19:30 学生とのトークセッション:学生 2 名と大使
19:30～19:50 質疑応答
19:50～20:00 閉会あいさつ

【ご略歴】ワリード・シーム駐日パレスチナ大使

レバノンのベイルート出身。イスラエルによる占領により、1948 年にエルサレムからの離郷を余儀なくされた難民の両親のもとに育つ。アメリカの大学で政治と国際関係学を専攻し、1994 年パレスチナ自治政府の国際協力省に入省。同省では北米局長、援助調整部長、世界銀行局長、日本・アジア局長を歴任した。1999 年に非駐在の日本・韓国代表に任命され、パレスチナと日本のあいだを数十回も行き来した。日本における常設機関の開設に尽力し、2003 年に駐日パレスチナ代表部が開設された。以来、駐日パレスチナ大使として日本とパレスチナの友好関係強化と二国解決実現に努め、日本によるパレスチナ独立国家承認を働きかけている。三男二女の父。



©駐日パレスチナ代表部